

別府市市民活動支援補助金活動計画書

1 活動名

多様な人々が支え合うコミュニティ創り

2 活動の目的及び内容

1.発達障害などで生きづらさを抱える人々やその周りの人々が、地域社会で支え合い、共に生きることを目指し、地域の課題に取り組むことで、社会参加の促進や偏見や差別の解消を目指します。また、発達障害などで生きづらさを抱える人々と地域社会との共生を促進することを目的としています。また支援者だけでなく、当事者ができる支援を考え実行することを目的としています。

2.発達障害などで生きづらさを抱える人々、その家族や支援者、地域住民を対象に活動を行います。

3.今年度も補助金制度を利用することで、協働の機会やつながりを増やし、学生ボランティアの機会の提供、自助・自律・自立支援、就労支援、こころとからだの支援などの活動をより広く深く行い、発達障害のある人々だけでなく様々な人達が地域で安心して生活できるよう促します。また、地域住民との交流や啓発活動を通じて、地域全体で発達障害に関する理解を深めることも目指します。さらに、この活動を「後につなぐ活動」として、参加者の成長を見守り、地域社会や社会資源とつながり、連携を強化していくことで、持続可能な地域のコミュニティ形成を目指します。

3 現状・課題・解決

現在、発達障害などで生きづらさを感じる人々が社会的に孤立・孤独することが問題となっています。80-50問題や親なきあと問題などもあげられます。そのため、当事者同士や地域社会との交流を促し、自己理解・他者理解・相互理解を深めることが求められています。また、地域住民や企業には、発達障害など多様性に対する理解不足や偏見があり、その解消が課題となっています。また昨年と今年度にかけて大分県内の発達障害団体の解散や無期限休止やNPOから任意団体への活動縮小が相次ぎ、県内の発達障害のコミュニティが縮小傾向にあり、当団体へのニーズは高まってきています。これらの課題を解決するため、ニーズに応えるため、発達障害などの当事者と地域社会が共に学び合える場を提供し、地域課題解決に向けた協働を促進することで、社会の多様性と共生と当事者の自立を目指します。また、「自走できる体制づくり」の一環として、参加者のスキルやリーダーシップの育成、地域とのネットワーキングを重視し、持続可能な地域社会への取り組みを行います。

4 スケジュール

- 交流会(茶話会)の開催:月1回(7月～3月)
- (新)交流会(読書会)の開催:1回以上(10月ほか)
- (新)成人発達障害支援勉強会の開催:月1回程度(7月～3月)
- (新)成人発達障害支援学会研修会、発達障害専門プログラム研修会への参加(9/7、9/8)
- 地域住民向けの啓発活動(ADHD啓発月間、発達障害啓発週間の啓発講演会):年2回程度(10月、3月)
- (新)コミュニティ交流会の開催(親子の会):年4回程度(8月、10月、12月、2月)

※オフラインだけでなく、オンラインでも開催する

※三密の回避、距離の確保、手指消毒・換気の励行を行う

5 アピールポイント

- 多様性を尊重した活動の提供:発達障害を抱える人々や定型発達者、異なる文化や背景を持つ人々が一緒に学び合える場を提供しています。
- 参加しやすい環境の整備:全員が参加しやすい環境を整え、誰もが自分らしく活躍できる場を提供しています。
- 豊富な活動内容:茶話会、ボードゲーム会、読書会、調理会など、多様な活動を提供しています。
- 社会貢献活動:社会全体に対して、多様性や共生社会の必要性を啓発するためのイベントを行っています。
- 学生がボランティア参加しやすいように、交通費を最大1,000円/回負担します。
- 新しく別府市の社会教育団体加入(申請中)や成人発達障害支援学会に入会したことで公共性・公益性を高め、活動意義をふかめています。
- 前年度の補助金制度のおかげで新聞に3回取り上げて頂いたり、県内の保健所や病院などから会を紹介して頂いています。
- 国の運営ポータルサイト「発達障害ナビポータル」や県の運営サイトに当団体情報やイベントが掲載されています。

6 波及効果

参加者の成長と交流:参加者が自己肯定感を高め、自分らしく生きることができるようになり、同時に異なる背景や文化を持つ人々との交流を通じて多様性を尊重する社会意識を高めることができます。

地域コミュニティの形成:当団体を通じて新たなつながりが生まれ、地域コミュニティが形成されます。

社会全体への啓発効果:当団体が行う啓発活動により、多様性や共生社会についての理解が深まり、社会全体の多様性を受け入れる風土が醸成されることが期待されます。

持続可能な活動の継承:学生や地域住民などが参加するところで興味関心を持ち、新たな活動やコミュニティ形成を促します。

自助・自律そして自立へ:支援者の支援だけでなく当事者ができる支援を知る、身につけることで自分を助けながら自分を律することを覚え、自立を促します。